

# 地域における 見守りのこれから



少子高齢化の加速と共に、2025年には認知症患者数は高齢者の約5人に1人を占める見込みと言われています。大阪市の独居高齢者率が40%を超えていることを考えると、今後ますます地域の中でのつながりは大切になってくることでしょう。

港区では従来から見守り活動が盛んに行われていますが、お互いの活動を知り、認め合うことで地域の見守り活動が本当の意味で生きてくるのではないのでしょうか。地域各団体の垣根を越えた連携や効率的な見守り活動について、地域全体で共に考えましょう。

平成29年9月8日(金)

14:00～16:00

14:00～ 講演会 15:10～ 事例紹介

講師：大阪教育大学 教育学部教育協働学科  
教授 新崎国広氏

場所：港区民センター ホール

定員：300名



## 《新崎国広氏プロフィール》

専門領域は、コミュニティソーシャルワークと地域福祉・福祉教育・ボランティアコーディネーションなど。コミュニティ機能の脆弱化による社会的孤立といった今日的問題は、高齢者や障がい者だけでなく子どもたちや子育て世代にも深刻な影響を与えており、従来の「制度による社会福祉」のみでは対応できない状況だといえます。公助・共助・自助の協働による参加型福祉社会の創造や、学校と地域住民との協働による福祉・教育コミュニティの構築を目指す実践的研究をされています。



主催：港区民生委員児童委員協議会・港区社会福祉協議会・港区役所